



14 区 | 比 曽 行政区

地理



村の南西部に位置しており、北に上飯樋と前田・八和木、東に長泥がある。山をはさんで川俣町や浪江町にも隣接していて、古くは相馬から中通りへ塩を運搬する「塩の道」も通っており、川俣町との往来も昔から盛んであった。川俣町との境には疣石山（いぼりいしやま）がそびえている。飯舘村の中でも標高が高く、冷涼で針葉樹が多い。地区の中心を西から東に向けて比曽川が流れている。

文化・生活

「比曽」という名前の由来として、
 ①「ヒノキ」が多く植えられている
 ②村の中心部、または中通り地域から離れているため「潜む」という語が転じた
 ③「木曽に比すべし」ところである
 など諸説ある。

気候の厳しい分、地域での助け合い精神は強く、水路の泥上げや道の草刈り、冬の雪かきなど役場の手が届かないところも協力して行ってきた。行政区の各家庭の歴史などをまとめた冊子も作られている（コラム参照）。

比曽村はかつては比曽、長泥、蕨平の3区からなっており、高冷地であるため昔から冷害に悩まされてきた。米が一粒も収穫できないほどの大凶作の年もあり、江戸時代には百数十軒あった家が飢饉で7軒ほどにまで減少したとの言い伝えもあり、村内の中でも特に被害の大きな地域であった。湿田が多い



菅野義人 行政区長

飯舘村出身。農業短大を卒業後、昭和47年に飯舘村で就農し、専業農家として牛の繁殖農家を営んできた。若いころは農協青年部で、現在は行政区長として精力的に活動している。

地域であったが、昭和10年ごろに暗渠排水の設備が整ってからは馬耕ができるようになり、収量も増加した。一方、山の源流に近く、水の確保には苦労してきた。

戦前には他地区と同様、副業として養蚕も行われていた。しかし、昭和前期ごろに葉タバコの生産が始まり、徐々に養蚕の規模は縮小していった。

飯舘村は江戸時代から馬産地として名高かったが、比曾はその中心地域であった。仔馬は貴重な現金収入になったほか、うまや肥（馬の糞と稲藁を混ぜ発酵させて作る肥料）ができたため、多くの家庭で牝馬を飼育していた。種付け用の牡馬は地区全体で3頭ほど飼育しており、田植え前の放牧で自然と種付けが行われる仕組みであった（畑の周りなどには簡易的な柵をこしらえ馬が侵入しないようにすることで放牧が成り立っていた）。戦後になると市場での仔馬の値段が下がってきたため、徐々に馬産が衰退し、代わりに和牛を育てるようになってきた。

・比曾の獅子（三匹獅子舞）

300年程前から伝わる「比曾の獅子」は、三匹による獅子舞である。田神社、羽山神社、愛宕神社、稲荷神社の四か所の祭礼の際に実施されていた。かつては青年団により運営されていたが、昭和43年に「上比曾郷土芸能保存会」を結成し、以降は保存会により管理されている。練習は、保存会の会長宅などで農閑期や節句、祭礼の前などに数日から一週間程度行った。

・田植え踊り

凶作に悩まされてきた比曾の人々は豊作への願いを強く抱いており、300年ほど前から田植え踊りが伝わるという。小正月を中心に実施され、承諾をした各家で踊りを舞っていたが、昭和43年からは集会議場で踊るのみとなった。運営は主に青年により担われた。明治37年には青年会が結成され、15歳から25歳までの男性は全員加入の義務があった。この中から計3名の世話人を選び、運営を主導した。田植え踊りが終わるとすぐに会計報告を兼ねた慰労会が行われ、散会するのは夜半過ぎであったという。

震災後、地域に居住する住民は少なくなった。それでも、行政区の規約を改正し世帯主だけでなく住民全員による議論を大切にするようにしたほか、村外に移住した人にも農地管理の話については連絡することを決めた。このような話し合いによって構成員の意識が地域に向いていくことを区長の菅野さんは願っている。

コラム

【比曽地区史】

村の第四次総合計画の中で、「地区別計画」が行われ、10年間の期間のなかでそれぞれ、地域づくりの方針を決め、実施することになった。比曽地域では、地域内に4か所の「ミニ公園」建設、「水芭蕉」の増殖、「比曽地区史」の編纂等の計画をたて、その一環として行われた。地域内に居住する家族ごとの写真や家系、比曽の歴史、民俗芸能等に分かれ、資料の収集や、写真撮影などすべて、地域住民の手で編集され、2006年に完成した。

店 事業所

昭和には食料品店やガソリンスタンド、酒・タバコを扱う店などがあった。震災前には縫製を行う事業所も1軒あった。

人 口

35人	1983年	472人
最新（2020年）	1998年	448人
	2011年	334人

▼ 田神社





▲ 羽山神社

▼ 長泥との境界に 2023 年 5 月 1 日 10 時まであったゲート。帰還困難区域に指定された長泥は 6 年遅れて居住や立ち入りが可能となった。



▲ 比曽行政区の集会所 かつては比曽小学校があった

▼ 比曽の郵便ポスト 2017 年の避難解除後も使えなかったが、2021 年に利用できるようになった。

